



『 CTとMRIの違いについて 』

CTとMRIの画像は良く似ていますが、どこが違うのでしょうか。

CTは、体にX線を照射し、得られた情報をコンピュータで解析して画像を作ります。最近では複数の検出器を用いることで、1回の撮影で得られる範囲が広がり、撮影時の息止めや、検査時間が大幅に短縮されており、広範囲の検査にはCTが適しています。

しかし、CTには放射線被曝があることが欠点です。また、病変と正常組織の濃度の差ではMRIに劣ります。

MRIは、強力な磁気と電波を利用して体内の水素原子の量と分布の状態を画像化します。脳や筋肉など水分の多い箇所の画像診断に力を発揮することや、放射線被曝の心配がないので妊婦や子供を対象とした検査や繰り返し行う検査に適しています。

しかし、検査出来る範囲が狭い、検査に時間を要する、骨の変化がわかりにくいなどの欠点があります。

このように、CT、MRIにはそれぞれ長所と短所があるため、必要な情報が得られるように、検査する部位や内容によって使い分けられています。

なお、MRI検査は騒音の低減化や撮影時間の短縮など、今後さらに発展が期待されます。



鹿児島県厚生連
中央検査室（放射線技師）
原口 宏典